



# SALVATIONIST

# とぎのこえ

2023年標語「更なる深みへ」(コロサイの信徒への手紙2章7節)

二〇二三年九月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



初秋号

広報版  
2023

September-October  
No.2858

2023年 救世軍標語

### 「更なる深みへ」

「キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。」

コロサイの信徒への手紙 2章7節

ときのこえ SALVATIONIST

初秋号 広報版

2023 September – October

NO.2858

### もくじ

- 最高会議リポート  
神様の導くほうへ  
司令官大佐 スティーブン・モーリス …… 3
- ブライアン・ペドル大將の挨拶  
引退にあたり …… 4
- 新大將へのインタビュー …… 5
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第28回  
ジョン・ウェスレーの聖潔  
一心うちに燃えて—  
少佐 丸畑 幸夫 …… 6
- 集会報告  
書記長官によるキャンペーン〔天満小隊、  
神戸小隊、京都小隊、泉尾小隊〕 …… 7  
連隊指導者就任式〔西日本連隊、関東東  
北連隊〕 …… 8
- 女性部ラリー  
東京東海道連隊 …… 9
- 各地のニュース !!  
呉小隊開戦 110周年記念聖別会 …… 9  
前橋小隊、静岡小隊 …… 10
- 〈連載〉各地の小隊から 第8回  
大森小隊 …… 10
- YP (青少年部)・ファミリーニュース  
東京東海道連隊、神田小隊、渋谷小隊、海  
外士官の来日 …… 11
- 災害対策室リポート  
7月豪雨災害被災地への支援 …… 12
- 各地のニュース !!  
ミッション・チーム活動報告〔NewHope  
麻布、上野小隊、広島小隊、呉地区、福  
山小隊、天満小隊、仙台小隊〕 …… 12、13
- 〈連載・第22回〉  
神の呼びかけ～神の民となるために～  
(8) 共に生きることへの呼びかけ …… 14
- 集会報告  
創立記念コンサート …… 14
- 召天記事 …… 15
- 各地のニュース !!  
里親支援センター明日葉開所式
- 救世軍公報 …… 15
- 集会報告  
人事・教育部長によるキャンペーン〔北  
海道連隊〕 …… 16



世界に広がる「現代奴隷制および人身取引」の現状、その被害者を覚え今年も祈りましょう。詳細、資料は人身取引対策室より発行されます。



@SArmyJP



SArmy\_JP



救世軍  
The Salvation Army

きりとり

- 『ときのこえ』購読を申し込みます。  
(1年分 1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

表紙の写真：米国南部軍国ミッション・チーム 仙台小隊でのカフェチャーチ (関連記事 13 ページ)

最高会議リポート

神様の導くほうへ

司令官 スティーブ・モーリス

世界中から集まった百十人の指導者たちと共に最高会議に出席できたことはウエンディ大佐と私にとって、大変光栄なことでした。五月十八日、私たちはたった一つの目的のために、重要な会議に集まりました。その目的とは、救世軍の次期大將を決めることです。大將が決まった時点で、最高会議はその役割を終えて幕を閉じます。私たちは、救世軍の霊的な励まし表現と、その偉大な指導力に、大いに感銘を受けました。世界中の祈りに包まれながら、私たちは、神様の御言葉(みことば)を土台にしたそのすばらしい時間を共有しました。

で、世界で最も新しい救世軍兵士として、小林千夏さんが紹介されました。ペドール大將ご自身が入隊式を司式した写真が映し出され、私たちはとても誇らしく思いました。そして、兵士も士官も、ボランティアスタッフも職員も皆、この部屋にいる私たちのために祈りを献(けん)げてくださいているのだと実感したとき、本当にへりくだる思いになりました。神様に従う人々の祈りと、世界の救世軍の祈りに対して、心から神様を賛美しました。

もう一つのハイライトは、カナタベリー大司教ジャスティン・ウエルビー師の訪問でした。大司教は、救世軍に、また、私たちが集まった目的であるこの大切な役割に対して、激励の言葉を向けてくださいました。大司教も大將も、同じように強調されていたことがあ

ります。それは、私たちが次期大將を決定するのではない、神様のご意思を見極め、神様がすでに選びになった人を選ぶことなのだということ。神様がすでに下された決定をサポートするための神聖なプロセスであるという考えが、とても腑(ふ)に落ちました。世界の救世軍が今後歩んでいく方向に多大な影響を与える大きな決断に対して、適切な考えだと思ったからです。

最高会議での最初の仕事は、選挙の実施に関するルールを見直すことでした。救世軍の顧問弁護士(べんしゆ)の監督のもとで、全員でその見直しにあたりました。最高会議では、英国政府を代表して決議がおこなわれるため、法律の専門家によって厳しく監督される必要があります。最終的には、最高会議での決議と新大將の名前は、英国議会に正式に報告されます。これは、一九二九年の最初の最高会議からずっと続いていることです。

五月二十七日土曜日、第二十二代大將が、現在大將と共に指揮を執(と)る参謀総長リンドン・バッキンガム中將に決定されたと発表されました。新大將は、母国ニユージーランドで妻ブロンウィン・バッキンガム中將と共に士官学校を卒業しました。彼らは、母国とカナダで小隊、連隊、本営で働き、シンガポールと英国で軍国指導者として導き、ブライアン・ペドール大將の選挙に伴って参謀総長に選ばれました。

二〇二三年八月三日、救世軍第二十二代大將として就任された新大將は、ブロンウィン中將と共にすばらしい指揮を執(と)られることでは



リンドン・バッキンガム大將及びブロンウィン・バッキンガム中將 歓迎集会  
指揮 参謀総長エドワード・ヒル中將、シェリー・ヒル中將  
2023年9月3日(日) 午後3時30分  
会場 リージェント・ホール小隊(英国ロンドン)  
同時刻、万国本営のウェブサイトでもライブ配信されます。

万国本営で新大將を歓迎

2023年8月7日(月)、リンドン・バッキンガム大將とブロンウィン・バッキンガム中將(万国女性部会長)が、英国ロンドンの万国本営(HQ)で、士官と職員の歓迎を受けました。軍旗が先導して新しい指導者が建物に入りました。ブロンウィン中將は、揺るがないイエスの真理に立ち続けていることを証(あかし)しました。大將は「カレブのように何歳になっても神への熱意で満たされたい。私たちが神に心から仕える、世界的なムーブメントであることはすばらしい祝

福です！ 私は救世軍の使命に心から身を献(けん)げていることを証(あかし)します。神に自らを献(けん)げ、惜(おぼ)しむことなく仕え、神の栄光(みか)と御国(みくに)が広げられますように」と語りました。



## ブライアン・ペドル大将の挨拶 引退にあたり

ロザリー中將と共に、大将として、また、万国女性部会長として、最後のご挨拶を申し上げます。皆様に心から感謝いたします。私たちの在任中、引退された士官の方々、天に召された方々もありました。その奉仕の生涯に感謝を献げます。在任中にお世話になった皆様に心から感謝いたします。

「在任中」と申しましたが、この5年間は、まばたきをしている間に過ぎ去ったように感じます。コロナ禍のために、5年間のうちの2年間はロンドンを出ることができなかつたのですが、暗闇の時と言えながらも、輝く金の時がありました。多くの士官や兵士の方々が亡くなりました。でも、神は働いておられました。私はかつてないほどに、万国的な救世軍を誇りに思いました。私には「コロナ大将」、「デジタル大将」という2つの名前がつきました。数々の挑戦にもかかわらず、思い返してみれば、神が真実な方であることを認めることができ、微笑むことができるのです。

実際に訪問することは難しかったとは言え、在任中のハイライトの一つは、各軍国を訪問したことでした。世界中に家族がいることを感謝し、喜んだ、この経験は説明し難いものでした。人々は感謝を表し、私たちのために祈ってくださったのです。私たちの足跡をたどり、神がなしてくださったことを見るために、もう一度、各地を訪問するには何カ月もかかることでしょう。2022年1月以来、神が働いてくださり、人々が信仰を喜んでいる姿を、私たちは見せていただけてきました。

神の御手が救世軍の上に置かれていることを私たちは信じています。

私たちは世界を救うための神の働きに参加しているのです。

福音を受け止め、奉仕に邁進する、という私たちのミッションステートメントを、私たちは信じているのです。

私たちはまもなく、カナダのトロント行きの飛行機に乗ります。新しい章の始まりです。神が私たちのために計画してくださるので、神に信頼して進みます。皆さんのことを覚え、これからも祈り続けます。

私たちは、リンドン・バッキンガム次期大将とブロンウィン・バッキンガム中將のリーダーシップに皆さんを委ねます。8月3日に彼らは大将と万国女性部会長としてその任に着きます。お二人のためにサポートと祈りを約束します。

最後の言葉：神は真実である。

聖書の約束：イザヤ書 41 章 10 節

「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。

勢いを与えてあなたを助け わたしの救いの右の手であなたを支える。」

約束：皆さんを愛し、皆さんのために祈ります。

忘れないでください。神は私たちと共にいてくださいます。最も必要なことは、神に仕える中で従順な信仰をもつことです。神の御祝福が豊かでありますように。

2023年7月28日 ブライアンとロザリーより

ることです。イエス・キリストを信じることによって、命と目的と希望と永遠があるという、良いニュースを人々に知ってもらいたいです。私たちが心から喜んで伝えることができたなら、どれほど素晴らしい影響を世界にもたらすでしょうか。

もう一つは、神の国の価値について話すだけでなく、それを実践することです。腕まくりをして、困難の中にいる人々の世話をし、傷ついている人々を助け、声を上げられない人々の声となり、正義のために声を上げ、苦しめられ、分離され、拒絶された人々を探しましょう。「私たちは神の愛を口で伝えるだけではありません。私たちの歴史である、スープ、ソープ（石鹸）、サルベージン（救い）を示したいのです」と言いましょ。救世軍人たちがこのことを理解し、近くの家をノックして、「何かお手伝いできることはありますか？」と声をかけていくのは素晴らしいことです。

三つ目は、私たちは聖潔のムーブメントである、ということです。この世にあって、塩となり、光となることは大切です。私たちの内に住んでくださる聖霊は、私たちが聖め、自由にし、喜びに満たしてくださいます。そのような

歩みをする時、実を实らせてくださるのは神の愛です。神の愛の力と価値を過小評価しないようにしましょう。

—ニュージーランド人で初めての大将です。これから世界各地を訪ねられることでしょう。大将の役割の中で一番わくわくすることは何でしょうか。

世界の救世軍の働きを励まし、靈感を与え、促進することは特権です。世界の救世軍人たちと関わりをもつために、私の主への愛を用いたいと思います。救世軍の使命や目的について救世軍人たちと話をし、素晴らしい機会を与えられていることを感謝しています。それはとてつもない特権であると思います。

—私たちは新大将のためにどう祈ったらよいでしょうか。

ブライアン・ペドル大将とロザリー・ペドル中將の送別集会で、祈りのカードに書き込むようにと言われました。カードに私はこう書きました。「恩寵、平安、知恵、勇氣。」私とブロンウィンのために、これらのことを祈ってください。それからもう一つ、私たちの家族のために祈っていただけると感謝です。

※万国本宮ホームページで動画視聴ができます（英語版）

# 新大将へのインタビュー

2023年5月27日(土)

8月3日付で、リンドン・バッキンガム大将が就任しました。最高会議で次期大将に選出された直後、会場のサンベリーコートでバッキンガム次期大将へのインタビューがなされました。  
〔インタビューア：英国軍国コミュニケーション部ジョー・モイア大尉〕

—キアオラ！（ニュージーランドのマオリ族の挨拶「こんにちは」）次期大将として選出されましたが、今、どのようなお気持ちですか？

いろいろな思いが混じり合っています。最高会議では、神の御心に応えよう、主がなせと言われることをなそう、という思いで皆が集っていたと思います。私は、結果はこうなるだろう、という思いはもたず、適切だと考えられることには喜んで参加しようと考えていました。ですから、今、圧倒されると同時に、謙遜な思いで、最高会議のメンバーの支持と承認を感謝しています。世界中の救世軍人が会議のため、会議員皆のために、いつも祈ってくださることを感じていました。私にとって最高会議のハイライトは、会議場に満ちている聖霊と、神の臨在でした。

主はご自身が望んでおられたことをお示しくださり、私たちはそれに参与することができたので、平安をいただいています。妻のブロンウィンがいつも一緒にいてくれるので感謝です。二人でこの務めを果たし、共に主に仕え、救世軍に仕えていきたいと思えます。この機会を与えられたことを喜んでいきます。

—ご家族に連絡されましたか？ ご家族は大將就任についてどう思っておられるでしょう？

家族はここから18,000キロも離れた遠くにいます。でも、会議場の脇の小部屋から、オンラインで連絡することができました。向こうは真夜中でしたが、皆、起きて待っていてくれました。息子と娘の家族、孫たちとも話せました。私たちは2013年以来、10年も母国（ニュージーランド）を離れていますが、神からの召しに応えるようにと、彼らはとても前向きでした。画面越しに、「母さん、父さん、前に向かって！」と言ってくれたのは、本当に素晴らしいことでした。

妻の両親とも話げできました。二人とも救世軍人で、80代ですが、私たちからの電話を待っていてくれました。二人とも、驚くと同時に誇らしく思っていました。

—どのようにしてキリストを信じるようになり、士官に召されたのか、少しお話しいただけますか？

6歳か7歳の時に、両親が救世軍の大会に私を連れていきました。高壇にいた人が、「イエス様に会いたいと思う人は、前に進み出てください」と言った時、イエス様に会えると思って、私は前に進み出ました。恵の座にひざまずくと、誰かが肩に手をかけてくれました。「イエス様だ！」と思いました。でもその声は私のおじさんに似ていて、目を開けてみると、やっぱりそうでした。イエス様に会えると思っていた私はがっかりしました。この事が私の心に小さな疑いの種を蒔きました。それ以来、私は、救世軍に行き働きに参加しても、それだけでした。少年兵になり、大人部の兵士にもなりましたが、自分の経験として証言をすることはできなかったのです。

変えられたのは17歳の時、1979年8月12日におこなわれた青年の集いに出席した時でした。その集会で、イ



エス・キリストの内に神の愛があることに気付かされました。そのことを頭でわかったというだけではなく、心で受け止めることができました。感動でした。心は、悔い改めの思い、嘆きの思い、そして、喜びに満たされていました。「これは本当だ！これは私のためなのだ！」と思いました。それで、恵の座に進み出ました。不思議な経験でした。泣いているのに、笑っているのです。いろいろな思いが一度に湧き出てきたのです。神の愛が心に溢れました。それが私に起こったことです。主イエス・キリストの救いを理解し、聖霊の導きを経験しました。その衝撃は大きなもので、士官になるよう勧められるのを待てないほどでした。集会が終わる前に、士官志願者の誓約書にサインし、切り取った半分を自分で保管し、もう一方を士官志願者係に渡しました。私はそれを今でも聖書に挟んで持っています。

—これからの役割の中でとても大切なのは、人々に靈感を与えること、感化を与えることだと思います。自分に感化を与えてくれたのは誰だと思われませんか？

多くの人の感化を受けてきたので、名前を挙げることは難しいのですが、忠実な救世軍人たち、と言えましょう。私に関心を寄せ、時間を取って話を聞いてくれて、私の成長期に正直に向き合ってくれた人、私の肩に手を置いて、「さあ、また一緒に進もう」と励ましてくれた下士官の方々。本当に私を導き、助けてくださった人々です。

また、士官であった両親は、私を愛し、訓練してくれました。大きな感化を受けました。霊的な旅路を導くために、弟子として成長できるようにと、主が送ってくださったのです。神に感謝しています。

—私の小隊の若い人たちに、大将に聞いてみたいことは、と尋ねました。彼らからの質問です。「学生時代の先生たちが今、あなたに会うとしたら、何と言うと思いますか？」

先生たちは、私が大將に選ばれたなんて信じられないと言うでしょう！私の父がまだ生きていたとしても、同じように言ったでしょう。良い生徒ではなかったのに、先生たちは困惑すると思います。

—最高会議でのスピーチは機密事項で、公にされることはありませんが、世界の救世軍に属する人々に伝えたい一つの事柄を挙げるとすれば、何でしょうか？

これは機密事項ではありませんので申し上げます。私は救世軍というムーブメントの三つの要点を大切にしています。一つは、私たちはイエスについて話をするを喜ぶ、ということです。神が愛であること、イエスはその愛の証明であること、誰でもイエスによって招かれていること、この良いニュースを分かち合うことが救世軍の責任である、と考えます。私が祈るのは、世界中の救世軍人たちが、自分のイエス・キリストとの関係、イエスが自分の生涯を変えてくださったことを、自然な形で他の人々に伝え

## 連載 聖潔の流れに立つ 第二十八回

### ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うち燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

(承前)「ドイツ敬虔主義」とは、ルター自身が神秘主義思想を好み、霊的強調を好んだが、次第に霊的強調が弱くなったルター派に対する改革運動で、ルター派内部でのピューリタニズムと言われている。ピューリタンが敬虔主義への準備を果たしたと見る者もあるが、納得できる。

ドイツにおいて、プロテスタントとカトリック諸侯との三十年戦争の痛ましい体験が、石化したルター派に厳しい雰囲気をつくり出した。禁欲的・実践的な信仰生活の必要が主張されて、中世末期以来の神秘主義の流れが霊的体験を重視するスピリチュアリズムを呼び覚ました。これは、より純粹な信仰を求めるきっかけとなり、宗教改革の源流となった。敬虔派は一つの教会を形造らず、ルター派教会の一部として残留していた。この運動はウエスレーにおいて更に精練と進展を見るようになった。

ウエスレーは一七三八年に米国より帰国したが、それでモラビアン教徒との交渉が終わったわけではなく、しばらくして、「ドイツ敬虔派」の一派であるモラビアン教徒を訪ねてドイツに向かうことを希望した。

ここで、ウエスレーが強い感化を受けたモラビアンの兄弟団について記しておく。

モラビアンはドイツ敬虔主義の一派である。三十年

にわたる宗教戦争の結果、国土が荒れ果て道徳的に乱れた時代に、宗教が形式化したことを憂えた人たちが啓蒙主義(思想的には理神論や合理主義)と戦って、敬虔な教会を立ち上げようとして築いたのが、一宗教団体のモラビアン派であった。理神論や合理主義は宗教を無力化する傾向があつたので、時代が要請した団体であつた。

#### 六、モラビアン兄弟団から歓迎を受ける

ウエスレーはモラビアン兄弟団の共同生活村を訪ね、歓迎を受けた。ヘルンフト村は「主の御守りの村」という意味があり、それがその地名の由来である。

この村にツインツェンドルフが伝道団を組織して、これを率いるようになったのは、幼い時の宗教性が培ったものである。ツインツェンドルフの父はザクセン公国の大臣であつたが、父の死後、彼は祖母に育てられた。彼女は敬虔派に属しており、ツインツェンドルフ伯もまた、幼い時より敬虔を愛した。彼は十歳から十七歳まで、ハレの敬虔派のフランクが創立した学校で学んだ。

ツインツェンドルフは長じて、宗教的熱心に加えて、団体を組織する才能があつた。ここに信仰的活力をもつ群れが形成されたのである。

彼らは当時の啓蒙主義的な宗教や形式化したキリスト教に抵抗を感じ、神に対する絶対信頼の感情を重んじ、知識だけでなく、道徳的生活や社会奉仕の実践に力を注いだ。彼らがルター派の清教徒(ピューリタン)と称されたことは故なきことではない。

ウエスレーはアルダスゲート街での回心当時、人は義認されると同時に罪はほとんどなくなるという考えをもっていた。後にこの考え方から離れて、義認と聖化(聖潔)を二心、区別するようになった。健全な信仰義認と聖潔観の理解を回心時のウエスレーに見いだすことは不可能である。「敬虔」と「聖潔」の結びつきを深く理解するためには、モラビアンを訪ねること

が必要だったのであろう。

後の英国メソジスト教会は、このモラビアン派の感化を強く受けた。メソジスト派のウエスレーの組織力、伝道への情熱・聡明な指導力、これらはモラビアン派の精神性と同族と言える。

モラビアンが二十年間に完成した外国伝道は歴史に大きな足跡を残した。世界的伝道の意気に燃えたウエスレーの「世界はわが教区」(I look upon all the world as my parish)の精神は、ここから生まれている。

#### 七、敬虔主義に接触したヒルティ

幾分か後の時代になり、スイスの思想家・法学者であるヒルティは、青年時代にドイツ敬虔主義の人々と接触していた。

ヒルティはこの派の農民たちや移住民たちの善良な生活態度に感服している。素朴で表面的には魅力に乏しく、現世的な快樂などとは全く無縁な生活をしながら、彼らが落ち着いた明朗さをもって生活しているのを見て、それは哲学や神学から得たものではないと知り、これを高く評価している。

ヒルティは、「死んだ正統主義」よりも、いのちのあるキリスト教信仰に関心をもっていた。学問よりも「実際の敬虔」と人々の心のふれあいを大切に生き方に深い興味をもっていた。

彼は宗教改革者たちには賛美の気持ちをもたなかつたが、一方、モラビアン派の人たちや、これと生活態度の似ている救世軍に大きな共感を抱いている。

ヒルティは教義学や哲学ではなく、彼らの行為によって、その宗教性を評価した人物である。彼は「救世軍」を「古い文化形成の石材ではなく、新しい文化の礎石となった」と評し、ウイリアム・ブースを尊敬している。ヒルティは救世軍が全世界でメソジスト伝統の「聖別会」をもち続けていることを評価している。

(続く)

# 集会 報告

## 書記長官西村保大佐補及び軍国女性部書記西村和江大佐補による 西日本連隊京阪神地区キャンペーン

6月4日(日) 天満小隊、11日(日) 神戸小隊、18日(日) 京都小隊、25日(日) 泉尾小隊

6月の日曜日に京阪神地区の各小隊で書記長官キャンペーンがおこなわれました。西日本連隊長本村大輔大尉が随行しました。

### 天満小隊

6月4日、祈祷会に続いて、聖別会を指揮。西村和江大佐補が証言をし、書記長官は詩編 139 編よりメッセージしました。(会衆 36 人) 昼食会での交流の時をもち、午後からは広告野戦に続いて、書記長官及び軍国女性部書記の指揮により、「連隊指導者就任式」をおこないました。(連隊指導者就任式記事、写真 8 ページ)

### 神戸小隊

6月11日、祈祷会に続いて、聖別会を指揮。書記長官は創世記 32:23～33 よりメッセージ。神の祝福を受けて新しく前に進むように、と聖書から奨励しました。(会衆 12 人、うち 1 人は電話をつないで参加、恵の座 3 人+オンライン〈泉尾〉5 人、別途視聴 7 回) 昼食会に続いて、信仰生活について分かち合い祈る時をもちました。(8 人)

### 京都小隊

6月18日、聖別会を指揮。西村和江大佐補が救いの証言をし、西村保大佐補がヨシュア 24:14、15 から「わたしとわたしの家は主に仕えます」と題して、信仰継承を主題としたメッセージを取り次ぎました。(会衆 15 人、うちリモート 2 人) 昼食会で父の日と誕生者のお祝いの時をもち、午後は、救世軍の兵士や同友者についての学びをしました。(12 人)

### 泉尾小隊

6月25日、書記長官による京阪神地区キャンペーンの一環として聖別会をおこないました。席上、鈴木和美副会計が 20 年の下士官永年勤続章を授与されました。また、新しい下士官として、石田知恵子兵士が会館軍曹に、石田怜子兵士がオルガニスト及び楽隊員に、石田征慈兵士がオルガニスト及び楽隊員に任命されました。(会衆 11 人、恵の座 7 人)

午後には、京阪神地区の戦友も応援に来てくださり、ミュージック・タイムとして会館前での賛美と広告、続いて、泉尾小隊を会場にした連合集会(「献堂三年感謝の集い」)を久々におこなうことができました。(会衆 26 人、恵の座 4 人) 泉尾小隊は 2020 年秋に新会館を献堂しましたが、新型コロナ下の数年を経て、このキャンペーンにおいて小隊の新しい一歩が導かれたことを感謝いたします。(小隊報)



神戸小隊



京都小隊



泉尾小隊 会館前でのミュージック・タイム



書記長官の右隣から、鈴木和美副会計、石田知恵子会館軍曹、石田怜子オルガニスト及び楽隊員、石田征慈オルガニスト及び楽隊員



泉尾小隊

# 集会報告

## 連隊指導者就任式

西日本連隊 6月4日(日)、関東東北連隊 7月16日(日)

### ●西日本連隊

6月4日(日)午後2時半より、大阪セントラルホールにおいて、書記長官西村保大佐補、軍国女性部書記西村和江大佐補の指揮で開催されました。

大阪セントラルホールバンドと神戸小隊士官及び泉尾小隊士官 立石友理恵少佐のピアノ奏楽により『救世軍歌集』337番「われにしたがえ」を一同で賛美し、神戸小隊士官及び泉尾小隊士官 立石真崇少佐が開会祈禱をしました。書記長官の開会の言葉に続いて、「連隊長及び連隊女性部書記就任式」をおこないました。新連隊長本村大輔大尉、新連隊女性部書記本村いずみ少佐がそれぞれ挨拶

と証言をし、書記長官はフィリピ2:1~11より「心を合わせ、思いを一つにして」と題してメッセージ。キリストに仕えるように相手の中にキリストを見て、敬虔な思いで主に仕えることを語りました。祈りの時をもち、書記長官が祝禱をしました。

今回は京阪神地区での久しぶりの連合集会となり、ティータイムでは歓談と交流の時間が続きました。(会衆33人、恵の座2人)



就任式 一同で祈りに心を合わせる



### ●関東東北連隊

7月16日(日)午前10時30分より、関東東北連隊本部・高崎小隊において、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の指揮でおこなわれました。連隊内の他の小隊、分隊はオンラインでつないで参加しました。

高崎小隊バンドとジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の奏楽で開会し、細貝信義少佐の司会で進められました。前橋小隊士官及び熊谷小隊士官補佐 田口哲也少佐が開会祈禱を献げ、司令官の開会の辞に続いて、司令官と軍国女性部会長が「連隊長及び連隊女性部書記就任式」を執りおこないました。新連隊女性部書記 細貝のぶ江少佐が証言をし、新潟小隊士官中川八重子少佐が歓迎の言葉を述べました。JSBの演奏があり、司令官は詩編40:1~6より「神とは誰か、私とは誰か」と題してメッセージ。

「主があなたを照らし」のバンド演奏と合唱で祝禱がなされ、最後に軍国女性部会長が祈禱を献げました。高崎小隊バンドとJSBが後奏をし、閉会しました。(会衆47人、恵の座4人、オンライン視聴8拠点)

高崎小隊会館では続いて愛餐会をし、和やかに昼食をいただきながら、新しい体制に心を向け、恵みを分かち合う時となりました。



司令官夫妻と、新連隊長 細貝信義少佐、新連隊女性部書記 細貝のぶ江少佐



救世軍日本開戦  
128周年記念日  
9月22日(金)





## 女性部ラリー

### ●東京東海道連隊

6月14日(水)、女性部ラリーが山室軍平記念ホールにておこなわれました。テーマは「いのちあふれて実を結ぶ」(主題聖句 詩編92:15)。久しぶりの対面でのラリーに、皆さん

再会を喜んでおられる姿が印象的でした。第一部の礼拝は、渋谷小隊士官勝篋実香大尉の司会で始まり、新連隊長中島美和大尉、新連隊女性部書記鈴木真理子大尉を、続いて鈴木真理子大尉が各小隊・施設出席者を歓迎しました。吉田ひとみ家庭団会計(川口)の開会祈祷、寺岡とく子書

記(横浜)の聖書朗読の後、鈴木真理子大尉が詩編92:13～16より、神様と個人的な交わりをもち、御言葉を口ずさむ人は誰でも必ず生き生きする、と御言葉を取り次ぎました。

第二部は、恵みの家前施設長・細貝順子氏(渋谷小隊オルガニスト)が、長年、児童福祉・老人福祉の現場で従事してきた豊かな経験の中から、目の前の「いのち」と向き合い、寄り添う中で、その一人ひとりの中に働かれるキリストを見いだす感動を、エピソードトークとして紹介しました。続いてダニエル・テンプルマン-トゥエルズ少佐のピアノと歌による賛美に包まれた後、グループに分かれて恵みを分かち合いました。最後に祈りをもって終了。1階にて新生寮、供給部、女性部が物品販売をおこない、盛況でした。(参加者96人)



吉田家庭団会計

寺岡書記

鈴木大尉



細貝オルガニスト

テンプルマン-トゥエルズ少佐



分かち合い、交流の時



セールのようす

## NEWS!! NEWS!!

### 各地のニュース!!

## 呉小隊

### ●開戦110周年記念聖別会

6月18日(日)、呉小隊開戦110周年記念聖別会を、広島小隊と福山小隊有志の出席者を交えて、呉小隊ホールにて合同でおこないました。

呉小隊士官 藤井健次大佐補司会のもと、野間頼子歓迎軍曹のピアノ奏楽と福山・呉小隊合同バンドの前奏によって始められ、開会賛美の『救世軍歌集』8番「よろこびあふれて」を高らかに賛美し、広島小隊士官 藤井千明大佐補が開会祈祷を献げました。野間歓迎軍曹が歓迎の言葉を述べた後、吉田有兵士が呉小隊の歴史と記念集会の経緯をプログラムの資料に沿って説明しました。今年のテーマ・コーラスを歌った

後、呉小隊を代表して八條真紀子家庭団書記の証言があり、佐々田清子家庭団会計が献金の感謝祈祷、吉田輝美兵士が聖書朗読をしました。続いて、福山小隊士官であり、呉小隊より献身した友安渚中尉が、ルカ17:20～21より、「わたしたちの間にある神の国」と題して、御言葉を取り次ぎました。

集会後、呉保育所一階ホールにて、記念愛餐会の時をもちました。(会衆51人、愛餐会20人)



野間歓迎軍曹

八條家庭団書記

友安中尉



NEWS!!  
NEWS!!

各地のニュース!!

前橋小隊

●バザー

7月8日(土)、9日(日)、前橋小隊では地域の「前橋七夕まつり」に



あわせてバザーを開催しました。初夏のバザーとしては4年ぶりの開催となりました。南北の中央商店街通り、弁天町商店街通りを行き交う人々に声をかけ、地域の



方々に奉仕することができました。今回、初の試みとして、2階ホールを使わず、1階スペースのみを利用しました。

静清小隊

●召天者合同記念聖別会

6月11日(日)、伝道事業部長 石川和男少佐を迎え、今年も召天者合同記念聖別会を開きました。

出席者の中には、4代目の救世軍兵士、東京や横浜等遠方から来られた方々、初めて聖別会に出席する方もあり、恵みと感謝の時となりました。

静清は、沼津・静岡・清水が合併(統合)した小隊です。



召天者名簿には、150人以上のお名前があり、この方々により、今の小隊、戦友方の信仰があることを覚え、神様に栄光を帰するものです。(会衆30人、うち子ども1人)

連載

各地の小隊から  
第8回 大森小隊

小隊士官 安達かな子少佐  
(東京東海道連隊管轄)



ハレルヤ! 多くの方々の御加禱、御指導、御支援をいただいて、今日、大森小隊が、主からの使命を遂行すべく、活動を続けさせていただいていることを、神様と皆様にご心より感謝申し上げます。大森小隊は、主の愛により、家庭的で温かい雰囲気のある小隊です。御霊により祈り、一致協力し、忠実に主に

仕える、謙遜な戦友方、関係者の方々です。

大森小隊の始まりを『ときのこえ』は次のように伝えていきます。——「東東京連隊大森小隊は、大正15年8月7日、山室軍平少将により、日本基督教会大森教会を会場に開設式。小隊長は黒岩治富衛中尉。野戦はずばらしく盛大であった。会衆は会場にあふれ四百名に上り、少将は立って、挨拶と共に救世軍の使命を語られた。恵の座には二十五名の決心者があった。入場ができず、外に立っていた者も多くあった。その人々のために、入新井第一小学校裏の広場にてさらに集会をなすこととなり、三、四百名の人々が群がり、少将が語られた。一同傾聴し、決心者が五名あった。」(『ときのこえ』大正15年9月1日号より抜粋)

- ・昭和14年3月12日に山室中将特別講演会が入新井第一小学校を会場におこなわれ、650人の会衆がありました。
- ・昭和18年3月31日、救世団大森恵愛教会となりました。

戦時中は活動できない時期があり、会館も失いました。

- ・昭和21年9月22日に救世軍再建発表会がなされると、大森小隊も借家で小隊を再開し、昭和22年5月29日～昭和29年3月まで保育園を併設しました。卒園生の方が、今も募金に協力してくださったり、園児だった救世軍兵士のご家族は、「今日あるは救世軍のおかげです」と証言をされています。
- ・小隊での日曜学校とともに、昭和27年からは、今村重春書記宅にて浦田分校が始められ、32年間続けられました。
- ・昭和28年3月21日に小隊会館開館式がなされました。
- ・現会館献堂は1994(平成6)年12月3日に司令官テッド・モーリス大佐司式でおこなわれました。

その後も、聖別会、野戦、救霊会、日曜学校、ジュニアクッキング、子ども会、青年団、家庭団、柏寿会、病院や施設、災害被災者やその他への慰問をおこなってきました。各々に盛んな時もあり、バンド練習、書道、子ども英語クラブやゴスペルワークショップを開いた時もありました。この間に、神と人にと仕える献身者4名を送り出し、現在に至っています。

大森小隊は、3年後には開設100周年を迎えます。2021年には大規模修繕工事をおこないました。今年、実行委員会を立ち上げ、現在、会館内部のリフォーム計画を進めております。神の恵みにより、熱心に主の働きを進めています。今後ともよろしくお願いたします。



クリスマス祝会で



商店街での野戦

# YP (青少年部)・ファミリーニュース

## 東京東海道連隊 ●キッズキャンプ 2023

7月25日(火)、26日(水)、奥多摩福音の家でおこないました。週末に梅雨明けし、真っ青な空のもと、「光の子として生きる！」(ヨハネ1:4~7)のテーマで、連隊内から子どもたちが集まりました。開会集会前からみんな元気いっぱい！ せみの鳴き声よりも大きな声でグラウンドで遊んだり、再会を喜んだりしました。開会集会は杉並小隊士官朝澤まりこ大尉がオリエンテーションとゲームを導き、それを通して、一人ひとり自分では気づいていない良いところがたくさんあることを知りました。

集会後は、外に出て、水遊び。水鉄砲と300個の水風船が用意され、子どもたちもやる気満タン！ みんなびしょ濡れになりながらスイカ割りも楽しみました。その後は自由参加で多摩川アドベンチャーに行きました。

草をかき分けて川辺に下るのは勇気がいりましたが、川の水は冷たくて気持ち良かったです。

夜は、バーベキューと、横浜小隊士官鈴木智博大尉夫妻のリードでキャンプファイヤーをおこないました。

翌日はラジオ体操と朝



食の後、チャペルで賛美とゲームの楽しい時をもちました。閉会集会では、連隊長中島美和大尉が、キャンプのテーマ聖句より、私たちは一人だと小さな火だけれども、みんなで集まると明るく周りを照らすことができるから、光の子となりましょう、と話しました。連隊長のリードで、子どもたちは紙袋のともしびを各々が作り、大人のスマホライトを中に入れて灯しました。たくさんの個性的な光に照らされながらの厳かなお祈りが、2日間のしめくりに献げられました。

神様が一人ひとりを光の子どもとしてくださっていることを感謝しながら、笑顔で散会しました。(参加者44人、連隊報)



## 神田小隊

### ●ジュニア・ソルジャー入隊式

7月9日(日)、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐出陣の聖別会で、高島喜歌さんのジュニア・ソルジャー入隊式がおこなわれました。イエス様のことをお友だちに話したいという喜歌さんの証言を聞き、主を賛美しました。



## 渋谷小隊

### ●PAS (青年たちの聖書の学びと交流の会)

5月28日(日)、PAS主催で、小隊の皆さんでハワイアン・パンケーキ・ランチをテラスでおこない

ました。新緑の美しい木々に囲まれて、おいしい食事と和やかな交わりの時を楽しみました。(36人)



## 海外士官の来日

ダニエル&メリッサ・テンプルマン-トウエルズ少佐とトビー君、アビーちゃんは、3月29日に日本に到着し、ダニエル少佐は士官学校長及び霊的生活成長部長、メリッサ少佐は江東小隊士官及び人身取引対策室長補佐として奉仕を開始しています。日本での2度目の奉仕に祝福をお祈りします。



女性サンデー 10月15日(日)

きずな献金 2023 を献げます

今年のきずな献金はミャンマーの人身取引防止のための啓蒙活動に用いられます

ポリューション・ハワイ来日の際に続き、快く訪問を受け入れてくださいました。女川向学館の説明を聞いた後、女川小学校へ向かい、放課後に残っている子どもたちの宿題を見たり、校庭で一緒に遊んだりしました。18時から向学館に来ている中学生たちと英語を用いてゲームをし、楽しく温かな交流の時をもちました。向学館代表の芳岡さんはメンバーからの質問に丁寧に答えてくださり、メンバーは日本についてより興味を深める時となりました。(※東日本大震災後、SAWSOが支援をおこなった団体)



女川向学館のプログラムで

6月22日(木) 大川小学校(東日本大震災の津波による遺構)に向かい、語り部の佐藤敏郎先生からお話を伺いました。実際に小学校の遺構を目の前にして聞く津波の話は、衝撃的でした。現実起こったことにショックを受けつつも、お話の中にあつた「ここから未来は拓かれていく」という前向きな姿勢に、一同、励まされる時でした。ガイドが終わった後、ミッションチームとその場所で祈る時をもちました。昼食後は、駅前商店街内にある「うたごえ喫茶そらおと」で賛美ミニストリーをおこなっている黒田夫妻と、賛美する時をもち、子どもたちとも交流し、和やかなひと時を過ごしました。



6月23日(金) 仙台小隊の近所にある南光台小学校に国際ボランティアとして参加。1年生と一緒に公園探検に出かけ、1時間目から昼休みまで、先生や子どもたちと交流の時をもちました。小隊に戻り、「ユースナイト」や翌日のカフェのための準備、チラシポスティン

グ(400部)をしました。19時から、Zoomを繋げて、関東東北連隊ユースナイト。連隊の4人の青年が



Zoomでのユースナイト

参加し、賛美、証言、デボーションをミッションチームが導き、恵みのひと時でした。

6月24日(土) 9時30分~15時、仙台小隊戦友と共にカフェチャーチをおこないました。地域に向けた企画は3年ぶりでしたが、初めて小隊に入ったという方も多く、ミュージックタイムやキッズコーナー、Othersの商品を楽しんでくださいました。ミッションチームは、ミサンガの作り方を子どもたちに教えました。また、アメリカ流のサンドイッチを料理して振る舞い、喜ばれました。地域の方の「またやってほしい」という声も聞くことができ、今後も地域に開かれた教会となるよう祈っていきたいと思いました。最後にミッションチームが「おどろくばかりの」を賛美し、皆で一緒にお祈りをし、終了しました。(参加者34人、スタッフ16人)

6月25日(日) 聖別会では、ミッションチームが賛美と証言、デボーションの役割をもちました。デボーションでは、イザヤ25:9から「主に信頼をおく時、勝利を得ることができる」と、私たちが与えられている救い、神の栄光がどれほど素晴らしいかを確認しました。力強い賛美、証言、御言葉を通して、励まされ、神を心から礼拝する時でした。また、愛餐会を久しぶりに開くことができ、仙台小隊としても喜びの時でした。(15人)

すべてのプログラムが終わり、ミッションチームメンバーとそれぞれが与えられた恵みについて分かち合いました。また、感謝と今後のミニストリーのため、お互いのために祈りました。彼らを通して与えられたひとつひとつの恵みを心から感謝します。(仙台小隊報)



## 災害対策室リポート

### 7月豪雨災害被災地への支援

7月初頭、線状降水帯が各地で発生し、甚大な被害をもたらしました。特に九州北部、秋田県内で大きな被害が出ました。福岡県久留米市田主丸町へは、豪雨直後から九州キリスト災害支援センター(九キ災)が九キ災



大牟田事務所(旧大牟田小隊会館)を拠点とし、物資提供、泥かき等の支援を始めました。救世軍ではこの支援のためサーキュレーター等の物資やスタッフ派遣の資金などを中央災害資金から支援しています。

7月26日(水)には八幡小隊から、田主丸地区同様に浸水被害が出ている久留米市大橋町の大橋校区コミュニティセンターに、麦茶24本入り10ケースをお届けしました。また、福岡小隊士官の松末泰志大尉(防災士)はボランティアとして支援活動に参加しました。

秋田県内での浸水被害に際しては、作業に使用する2トントラックの整備費用を救世軍から支援することになりました。猛暑の中、被災された方々、支援活動に従事する方々を覚えてお祈りください。オンライン社会鍋も実施しています。

NEWS!!  
NEWS!!

各地のニュース!!

## ミッション・チーム活動報告

6月5日(月)～7月16日(日)、米国南部軍国よりミッション・チームが来日し、ジェラルド・マルドナード兵士(リーダー)、グレイシー・パリッシュ兵士(リーダー)、デボラ・エンズリー兵士、ケオラニ・ペレス兵士の4人が各地で福音伝道の働きに従事しました。(7月の活動は次号に掲載予定です。)

## New Hope 麻布

6月7日(水)～10日(土)「キッズファンクラブ」の講師、英会話個別レッスンでの指導、バイブルスタディでのゲストスピーカー、「キッズペイント」のデモンストレーションを担当するなど、各プログラムに参加しました。

## 上野小隊

6月11日(日) 聖別会で賛美を担当し、午後からは山谷給食の準備と配食奉仕に参加しました。通訳は石川一由紀少佐。



## 広島小隊、呉地区、福山小隊

6月13日(火) メンバーと通訳の石川眞兵士が到着。

6月14日(水) 広島 家庭集会。参加者全員が自己紹介と証言をし、メンバーの信仰体験について質問等が熱心に交わされました。間島年夫特務曹長のハーモニカ演奏には、メンバーも釘付けになりました。(10人)

6月15日(木) 呉 午前中は呉保育所集会。聖書のお話、賛美、ダンスを通して、神様の恵みを子どもたちに伝えました。(40人) 保育所での昼食後、愛光園、「明日葉」、「かるが会」の見学をし、呉地区での救世軍の働きに触れました。(見学人数:愛光園7人、明日葉6人、かるが会8人)

その後、豊浜学寮に移動し、子どもたち、職員と共に夕食。夜は豊浜学寮の子どもたちとの集会。聖書のお話、賛美、ダンス、ゲームなど、笑顔が絶えないひと時でした。(40人)

6月16日(金) 福山小隊 翌日の「こども夏まつり」のための準備。また、救世軍の理解者でもある能宗孝館長の案内のもと福山自動車時計博物館を見学し、福山城なども見て回りました。

夕方、最寄りの公園で、集会案内、『キッズゴスペル』、『とぎのこえ』をセットにして、チラシ配布とポスティング(80枚)。公園では多くの子どもたちが興味をもってくれ、一緒に遊ぶことができました。子どもたちと日米のお菓子をお互いに交換するなど、交流を楽しみました。夕食は、戦友と共に餅づくりを体験し、談笑する中で、戦友とメンバーの交流が深まりました。

6月17日(土) 福山小隊 こども夏まつり。小隊前で午前10時～12時に開催しました。メンバーはゲームコーナーを担当。人通りの少ない日でしたが、数名で近隣の通りに声を掛けて回るなどし、買い物途中の子どもたちも来てくれました。いつもサンビーム(子どもの集会)に来ている家族の他に、クリスマス集会以来となる

家族も来てくださる等、楽しい時となりました。関係先の企業からフードロス対策で寄付していただいた商



広島・家庭集会

品と共に、集会案内セットを渡しました。

(20人)

午後の、ミッションチームによる「賛美と証しの集会」は、日本語での賛美、ユーフォニアムの演奏があり、



福山・こども夏まつり

メンバーの証言では神様との関係が力強く語られました(9人)。「送別会」では、戦友皆で用意した、折り紙で作った色とりどりの薔薇(福山市が「薔薇の町」であることにちなんで)をメンバーへプレゼントしました。広島県での活動を振り返る時をもち、お互いのために祈りを献げました。ミッションチームの存在が、地域や戦友にとって大きな恵みと励みとなりました。(福山小隊報)

## 天満小隊

6月18日(日) 聖別会でメンバー2人が証言をしました。昼食は子どもたちがトッピングしたピザを皆で食べ、午後は子ども会で賛美、ゲーム、メッセージを導きました。続いて、京阪神地区の青年や士官が集い、夕食(バーベキュー)準備をして一緒にいただき、交流会をもちました。2人が証言をし、日本語で賛美をしました。久しぶりの行事に、参加した子どもたちから「楽しかった!」との感想がありました。



## 仙台小隊

6月20日(火) 仙台小隊到着。オリエンテーションと祈祷会をし、与えられた機会に感謝し、これからの5日間、常に神様に目を向けることができるよう祈りました。6月21日(水) 昼前に女川町に到着し、「障がい就労継続支援B型事業所きらら女川」\*で昼食。その後、女川町の子どもたちや若者に学びの機会を提供している「一般社団法人まちとこ女川向学館」\*へ向かいました。レ

〈連載・第22回〉

## 神の呼びかけ ～神の民となるために～

### (8) 共に生きることへの呼びかけ

(承前) ロンドン橋の上で、とある花売りの人が万国本営の建物を指さしながら救世軍士官に声をかけ「あんたたち救世軍人は世界一金持ちだね」とつかかりました。その人は本当のことを知りませんでした。実は彼が話しかけたその士官の口座には、その時ほんの少しの残高しかありませんでした。彼が指さした建物も、その一つひとつのブロックは世界中の救世軍人の献金により賄われたものであり、公の基金からではありません。それでも、花売りの言葉は的を射ていました。そうです。救世軍人は世界で一番豊かな人々と言えます。わたしたちは神様を、神様の赦しと愛を、助けを、導きを、力を、平安を、そして他にも多くのものを知っているからです。そして、それらのすべてに加え、神様の御国に属するものであると感ずることができる、最も豊かな交わりを知っているからです。他のクリスチャンからの支えを感じることは、大きな特権です。それは絶望の時、死別の時、不正に遭った時、不当な扱いを受けた時、悲しみや孤独を感じた時、示されます。信仰の祈りが応えられた時、祝福は倍増します。

互いに導き合うこと、あるいは他の人を助けることや他の人を過ちから救うことの特権は、交わりがあって可能となります。人々が信仰的に成長するのを支えることは、支援を受けた相手にも、支援をした本人にも、報いが与えられます。霊的な満足と人生の豊かさが与えられます。使徒パウロはそうのように互いに支え合うことの価

値や、信者たちから満たされる喜びについて、「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たして」(フィリピ2・2)と述べています。彼は続けて、「……へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい」(3、4節)と勧めます。

委員会では、救世軍人に互いを認め合うよう呼びかけます。人は認められれば、価値あるものとされたと感じ、良い結果を生みます。彼らは気持ち良くなり、自分は役割を担うことにふさわしいと感じるようになります。人に感謝されれば、また同じようにします。幼い頃に自信を失うと、大人になってから問題を起こすようになると言われます。救世軍の指導者や士官たちは、人々を低く見てはならず、きちんと認めなくてはなりません。そうしないことは、不要な問題や心の痛みを引き起こすこととなります。委員会は、世界中の救世軍人に対し、キリストにあって互いに認め合うよう、そしてその結果を楽しむよう、呼びかけます。

さらに、お互いにチャレンジし合うよう呼びかけます。チャレンジには様々な方法があります。日曜日ごとの講壇からの場合もあります。聖書はチャレンジに満ちており、救世軍歌にもチャレンジがあり、聖霊は独特の方法で信仰者にチャレンジするかもしれません。チャレンジは、個人的にも全体的にも独善になることへの薬となります。チャレンジを避けるクリスチャンは、クリスチャンの人生を避けるのと同じです。クリスチャンはまた、チャレンジを与える側にもなるべきです。そして、チャレンジを与える側の人個人が個人的な関わりをも約束すれば、そのチャレンジはより重要性を増します。(続く)

## 集会報告

### 創立記念コンサート

6月11日(日) 午後3時 山室軍平記念ホール

救世軍創立158周年を記念し、おこないました。コミュニケーション部長山谷真少佐が司会をし、映像により救世軍の歴史が紹介され、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の演奏、士官学校長ダニエル・テンブルマン・トゥエルズ少佐のピアノ演奏がありました。神戸小隊の野本亮一兵士、立石和奏兵士によるギターと歌の演奏の動画では、神戸小隊玄関で歓迎する場面から始まり、神戸小隊の戦友も加わって賛美する姿が、小隊の歩みの写真も織り交ぜて紹介されました。会場の参加者も共に歌いました。



続いて、社会鍋俳句コンテストの授賞式がおこなわれ、選者の唐澤南海子先生

が総評を述べ、全国より寄せられた408句の中から選ばれた受賞作(最

優秀賞1句、優秀賞2句、社会福祉部長賞1句、ほのぼの賞3句)と、佳作8作品が朗読の動画により紹介されました。授賞式には都内をはじめ埼玉県から、また、佐野小隊からも受賞者が出席されました。

山谷真少佐が「セカンドチャンスはみんなに！」(詩編37:3~4)と題してメッセージをしました。救世軍公式YouTubeチャンネルで集会の動画を見ることができます。(会衆86人、動画視聴回数818回、8月8日現在)



唐澤先生(左から3人目)と、出席した社会鍋俳句コンテストの受賞者



### 加茂巖少佐 天に召さる

加茂巖少佐は、2023年6月9日、救世軍恵泉ホームより、老衰のため天に召されました。87歳でした。

加茂巖少佐は、1955年、上野小隊より士官学校『靈剣帯用者』の学年へ入校し、1956年6月、少尉に任ぜられ、仙台小隊付の任命を受けました。その後、大阪開戦小隊長、士官学校付、泉尾小隊長の任を受け、1960年には立石コソメ中尉と結婚。その後も、数々の小隊（札幌、高知、浄心、前橋、上野、渋谷、神戸、天満、高崎）、連隊（関西四国連隊長、関東東北連隊長）、本営社会福祉部、医療部、施設の任命を受けられ、1996年には、士官永年勤続章40年章を授与されました。2000年に現役を引退されましたが、引退後も高知小隊と京都小隊で奉仕を継続され、2002年3月に完全引退されるまで、神と人に仕える働きをされました。

加茂少佐の召天後、恵泉ホームで、ホームのスタッフ、顧問の吉田真中將、家族と共に、「お別れの時」がもたれました。

6月15日、清瀬小隊において、11時からお別れの時、12時半より告別式が、清瀬小隊士官補佐吉田司少佐の司式で執りおこなわれました。御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。



### 村上幹雄大人部書記 天に召さる

八幡小隊の村上幹雄書記は、2023年8月7日、入院先の病院より、老衰のため天に召されました。99歳でした。

村上幹雄書記は、24歳の時に大越忠孝さん（福岡小隊兵士）を通して救世軍八幡小隊に導かれ、イエス様と出会い救われて以来、熱心で忠実な信仰生活を貫かれました。イツミ夫人と結婚後は、家庭を開放して子ども会や家庭集会を開き、職場でも熱心に伝道し、募金においても積極的に開拓をしました。小隊では、青年部曹長や大人部会計、大人部書記として忠実な奉仕を続けてこられ、その穏やかな人柄は多くの人に良い感化を与えられました。2020年からは、聖別会に集うことは体力的に難しくなりましたが、ご家族に支えられて自宅で穏やかに過ごされていました。昨年7月に自宅で転倒、腰を骨折して入院され、約1年の療養生活後、75年の信仰生活を閉じられました。

8月9日、折しも台風の接近の中、家族葬で火葬までおこない、8月13日（日）、救世軍八幡小隊にて、聖別会の席上告別式を、八幡小隊士官樋口和光少佐司式でおこないました。御遺族はじめ小隊戦友、関係者が集い、村上書記を偲びつつ告別の時をもちました。御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。（小隊報）

## 広島県東部・北部 里親支援センター明日葉 開所式

本年2月に広島県は里親支援センターの受託事業者を公募し、救世軍社会事業団 児童家庭支援センター明日葉（広島県呉市）が正式に受託し開設準備を進めてきました。この度、JR福山駅の駅ビル「さんすて福山」2階の好立地にオープンすることができました。

7月27日（木）正午からの開所式は、吉田有センター長が司会し、司令官（救世軍社会事業団理事長）スティーブン・モーリス大佐の式辞、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の挨拶、小尻由美子副センター長による式辞があり、参加者からもひと言ずつ温かい言葉をいただきました。来賓として広島県子ども家庭課主査、東部子ども家庭センター（児童相談所）の所長と里親担当、北部子ども家庭センター里親担当、弁護士、東部里親会副会長、また、非営利法人に初めて店舗スペースを貸してく

ださった「さんすて福山」の運営企業山陽SCの担当者、内装の設計施工をした日本アーキテクト株式会社が出席されました。式後、軍国女性部会長がスタッフと感謝の祈りを献げる際、広島県担当者も一緒に祈りに加わりたいとお申し出くださいました。救世軍の理念を多くの方が理解してくださることに感謝し、里親支援センターの働きを始めることができました。（参加者：明日葉スタッフ5人、本営2人、来賓8人）

**NEWS!!**  
**NEWS!!**  
**各地のニュース!!**



**小隊候補生サンデー 9月3日（日）**

**士官志願者サンデー 10月1日（日）**  
**士官志願者及び献身者祈禱週間**  
**9月24日～10月8日**

司令官  
スティーブン・モーリス

召天  
加茂 巖少佐（上野小隊出身）  
は、二〇二三年六月九日、召天。

司令官  
スティーブン・モーリス  
二十五年永年勤続章  
齋藤久美子少佐  
二〇二三年九月二十二日付

任命（カッコ内は継続任命）  
補兼広島県東部・北部里親支援センター付（福山小隊士官・兼西日本連隊青少年部書記）  
友安渚中尉  
二〇二三年九月一日付  
司令官  
スティーブン・モーリス

救世軍公報

**召天者合同記念会**  
**10月14日（土）午後2時**  
於：多磨霊園 救世軍墓所（七区一種五側一番）

**感謝祭 9月15日～30日**  
**感謝祭オンラインイベント**  
**9月10日（日）午後1時**  
救世軍 YouTube チャンネルにて配信

創立者 ウイリアム・ブリス 大將 リンドン・パッキングラム (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

# 集会報告

## 人事・教育部長添田美和少佐による 北海道連隊キャンペーン 6月11日(日)～18日(日)

北国北海道でも暖かくなり、ルピナスの花があちこちで目を楽ませせてくれる季節に伝道キャンペーンがおこなわれました。テーマは「神から与えられたものを知る」(コリントー2:12)でした。

10日(土) 函館空港に人事・教育部長、到着。

11日(日) 函館小隊。吉越紀子書記、吉越義広新兵軍曹が準備を整えて迎えました。少し肌寒いのでストーブも焚いていました。聖別会は、司会の連隊長石坂臣司少佐がギター伴奏で賛美を導きました。吉越義広新兵軍曹が祈禱し、添田少佐の挨拶があり、献金の後、ヨハネ20:19～23から「神から与えられた聖霊」と題して添田少佐がメッセージしました(会衆6人)。午後は札幌へ移動。天候が悪く霧の中の移動となりました。札幌に到着後しばらくすると道内浦河町が震源となる震度5弱の地震がありましたが、大きな被害はありませんでした。



函館小隊

12日(月) 桑園保育所の子ども集会と視察(大人5人、子ども27人)、移動し菊水上町保育園の子ども集会と視察(大人8人、子ども29人)をしました。午後は小樽へ移動し樋渡宅集会(5人)、添田少佐がメッセージをしました。帰りに小樽分隊の建物を視察。

13日(火) しせいかん保育園の子ども集会と視察(大人4人、子ども32人)。その後、江別市の原田宅集会(5人)。添田美和少佐がメッセージをし、昼食は庭でバーベキューを楽しみました。札幌に戻り、菊水上町保育園の職員会議に出席。詩編100:3から「神はわたしたちを造



菊水上町保育園



樋渡宅集会



原田宅集会

られた」と題して添田少佐が奨励(15人)。14日(水) 帯広へ移動。翌日の集会準備をしました。15日(木) 帯広小隊。「女性の働き交流会」で、交わりと賛美の時をもって打ち解けた雰囲気の中、「萌え断サンドイッチ」を楽しく調理。並行して「みつろうラップ」作りもしました。サンドイッチをおいしくいただいた後、コリントー12:4～11からバイブルリーディングを添田少佐が導きました。(11人)



帯広小隊



帯広小隊

16日(金) 連隊士官会(心霊会)。眞鍋和枝少佐の証言、添田美和少佐がヘブライ12:1～13から「愛する者を鍛えられる主」と題してメッセージ。昼食後、釧路へ移動。17日(土) 釧路分隊聖別会。いつも釧路の会館を管理してくださっている紺野さん夫妻と、帯広から樋口潔中尉、坪川智兵士、石川公貴さんも集まりました。使徒2:14～33から「約束された聖霊を受け取り続ける」と添田少佐がメッセージをしました(会衆10人)。短くお茶の時をもって遠軽へ移動。



釧路小隊

18日(日) 遠軽小隊聖別会。眞鍋和枝少佐の奏楽で始まり、眞鍋精一少佐の司会で進められました。添田少佐はエフェソ5:1～20から「神に倣う者の生き方～聖霊充滿」と題してメッセージ。昼食会では4月に急逝された力石敏宏さんを記念して思い出を語り合いました(会衆11人)。帰る途中に救世橋と救世軍の山林を視察し、キャンペーンが終了しました。(連隊報)



遠軽小隊

(取扱支部)

発行日及び定価

発行日 毎月一日発行

定価 四〇〇円

福喜版・一部 一〇〇円

広報版・一部 一〇〇円

クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円

振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

印刷兼 救世軍

印刷人 代表者 スティーブン・モリス

編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区

神田神保町二丁目十七

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 株式会社ヒートプレス